

令和6年度第1回碧南市障害者差別解消支援地域協議会 会議録

1 日時

令和6年6月25日（火）午前11時35分から正午まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくるデイルーム

3 出席者

(1) 出席委員 11名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（会長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（副会長）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市民生委員児童委員協議会 榊原 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長） 水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 後藤 恵子

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局職員

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) 令和5年度の取組について

(2) 令和6年度の取組について

(3) 県内の相談状況について

6 議事の要旨

(1) あいさつ（中川会長）

(2) 議題

ア 令和5年度取組について

事務局より会議資料に基づき議題（1）を説明。

イ 令和6年度取組について

事務局より会議資料に基づき議題（2）を説明。

ウ 県内の相談状況について

事務局より会議資料に基づき議題（3）を説明し、全ての議題について審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：こどもへの合理的配慮について検討を行うべきだと考えている。

事務局：こどもからの声の拾い方というのは課題である。こども課、学校教育課と連携する課題であると考えている。

B委員：メディアが障害者に対する良くないイメージ形成を行うことがあると感じる。

C委員：金銭管理をいつまでも保護者が行い、本人が金銭管理を行うことができないという事例がある。その結果、本人の思いが実現できにくい。自身で金銭管理を行うことが、本人の思いを実現するための方法の一つであるとする。

7 まとめ（日本福祉大学 青木聖久 教授）

4点述べたいと思う。

4点

①合理的配慮とは何か。合理的配慮とは建設的な対話による折り合い点の発見。相手の思いをくみ取りながら望みの折り合い点をどのように導くのか。

②顕在と潜在。言葉で言うことが本音とは限らない。潜在的にどのようなことを思っているのかが大切。言葉にしていなくても思っていること、より深い本人が気づいていないことが大切。対話で気づくしかない。

③知ることの大切さ。障害に関する情報について、マスコミとコメンテーターが正しく社会に伝えていくことが大切である。

④数字の読み取りは氷山の一角である。統計上に現れる数字は表に出ているものと考え、表出しない数字も潜んでいると考えるのが良い。

以上